

Weekly Bulletin 2017-2018



RI会長
イアン H.S. ライズリー



ロータリー：
変化をもたらす

静岡東ロータリークラブ

会長 / 高田雅司 幹事 / 川崎依子

事務局 / 静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場 / ホテルアソシア静岡 例会日 / 毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
高田雅司

第 2855 回例会

平成 30 年 5 月 24 日 天候 晴れ

- 《司 会》 川崎 依子 君
- 《合 唱》 「それでこそロータリー」
- 《BGM》 なし
- 《ゲスト》 日本語ボランティアひらがな事務局
齊藤 晴美 様
- 《ビジター》 清水中央ロータリークラブ
望月 紀久朗 君

《本日のお祝い》

お誕生日
該当者なし

結婚記念日
該当者なし

《会長挨拶要旨》



高田 雅司 会長

皆さん、こんにちは。
今日は青少年奉仕のクラブフォーラムとして、齊藤晴美様をお迎えし「日本語ボランティア」と題し卓話を頂きます。よろしくお願いします。

さて今日は建築といふか建設業界のお話をさせて頂きます。

今、日本経済はバブルの崩壊以後、20 年余の長い失われた時代を経て平成 22 年ころを境に緩やかな上昇傾向を維持しているとの事
ここ数年の日銀短観の報告です。国内総生産の推移を見ても、直近の 10 年を見ると、平成 19 年を 100 として見たとき、平成 21 年が 92、平成 22 年が底で 88、平成 24 年が 93、平成 27 年が 100、そして平成 29 年は 104 と増加の見込みです。これに呼応する形で建設投資は平成 21 年が 90、平成 24 年が 95、平成 27 年が 108、そして平成 29 年が 116 と予測されています。

国内総生産(GDP)に占める建設投資もここ 15 年程はほぼ一定で 10%前後で推移しています。かつて昭和の時代には建設産業はGDPの 15~25 パーセン

トを占める一大産業で、特に田中角栄の「日本列島改造論」の出された昭和 47 年にはピークの 25 パーセントを占めておりました。

金額的にはバブル末期の平成 4 年がピークで、建築・土木は官民合わせて総額 84 兆円でした。それが平成 22 年には半減の 42 兆円まで落ち込み、その後少しずつ回復し昨年度 55 兆円となる見込みです。

昨年度の建設投資の金額での割合は、建築が 30 兆円で 55%、土木が 25 兆円で 45%。建築 30 兆円の中の割合は、民間が 90%の 27 兆円、官庁が 3 兆円で 10%です、民間のうち 16 兆円が住宅、非住宅が 11 兆円となっています。

いずれにしても、建設業界は、一部のディベロッパーを除いて常に受け身の産業であり、一般の企業や消費者が元気にならないと活性化しませんし、良いも悪いもタイムラグのある後追いの業種であります。

どうか会員の皆さんもたくさん儲けて頂いて、由利さんや、青島さん、中嶋さん、山下さん、肥田さん、そして私共を潤わせて下さい。よろしくお願いします。

《来賓卓話》

「自立につながる日本語支援

～定住外国人とその子どもたち～」

日本語ボランティアひらがな事務局 齊藤晴美様



私は「日本語ボランティアひらがな」事務局でコーディネーターとして、また静岡市日本語指導教室で教師として働いています。

「日本語ボランティアひらがな」とは、在住外国人とその子どもたちが社会人として安定して暮らせるように、日本語教育として識

字、言葉を教え、また個々に抱える問題や相談事に対応することで、共に生活しやすい環境を考え、市民生活の場として機能させる活動で、今年で 24 年目になります。具体的な活動内容は、まず、週 1~2 回の日本語個人授業があります。昨年は 22 カ国 135 名の外国人

が学びました。中国の方、フィリピンの方が多いのですが、ここ数年はネパールの方が増えてきました。授業はマンツーマンです。登録しているボランティアが80名おり、実働は55名～60名程度になりますが、この方たちが対応してくれています。ボランティアは女性が多いのですが、最近は退職された男性の方も増えてきました。

そのほかの活動としては外国人児童生徒のための日本語授業、情報交換などがあります。

学習者の学習動機は、手紙が読めない、夫婦間のコミュニケーションが取れない、といった理由から、読む・書く・聞く・話すための基本を身に着け、日本人とコミュニケーションを取りたいというものが多のですが、最近では、仕事に就きたい、仕事で使う日本語を覚えたい、日本語能力試験を受けたいというものが増えてきました。日本語能力試験は何級を持っているかが就職に直接関係してきます。2級を持っていると選べる仕事の幅が広がってきます。

「静岡市日本語指導教室」とは市内の小中学校に在籍する外国人児童生徒および帰国児童生徒が継続して日本語指導が受けられるように、静岡市教育委員会が設置したもので、私は18年前の立ち上げメンバーでもありました。

静岡市内には「静岡市立森下小学校内」と「静岡市特別支援教育センター内」、「清水有度第一小学校内」に設置されています。

「教室」の活動は指導と支援に分けられます。

指導は、「通級指導(日本語教室)」と「訪問指導」の2種類があり、いずれも学校生活、教科学習に必要な日本語指導と日常及び学校生活への適応指導を行っています。

支援は学校生活に適応するためのもので、学校生活上の悩みに対する相談、保護者の方への助言、在籍校の担任の先生との連絡などになります。

児童生徒は、異なる習慣への戸惑い、教科学習への参加が困難、友人関係の構築が困難といった悩みを抱えています。

中学生にとっては高校入試がとても高いハードルになっています。特に入試における面接は日本特有のもので対応が大変なようです。お辞儀の仕方、挨拶の仕方、歩き方など、学ぶことが多いです。

来日時点での年齢が小学校低学年であれば母国語で思考することが不十分ですので日本語を覚えやすくまた中学校3年以降は母国語で思考することが確立しているため、日本語学習に支障はありません。小学校高学年から中学校1、2年の時期に来日した児童は母国語が確立していないため高度な会話ができず、語学以外の学習に支障が出やすく、一方で日本語を覚えることも不十分な母国語が足を引っ張ることになります。このダブルリミテッド問題が学校に行きたくない子どもたちを生み、犯罪に巻き込まれていくきっかけとなるのです。

最近は公立、私立ともに日本人と同じように受験して高校に進学する児童が増えていきます。高校に入ることはその後の人生にとってとても重要なことですので

子どもたちに多くのチャンスを与えていきたいと思えます。

また保護者の方の問題として、日本の教育制度を理解しておらず、お金がかかるから進学させない、弟妹の子守の為に学校を休ませるといった行為が散見されるため、保護者の教育が必要だと感じる場合があります。

日本は人口減少社会に突入していきませんが、人口減少による影響を緩和させるために外国人労働者を増やす対応や姉妹都市をはじめとした国際交流といった観点で外国人と関わっていくのでは不十分です。

まずは定住者のサポートを重視してもらいたいと思います。これにより犯罪を減らし社会と共生する外国人を増やせます。それが外国人も我々日本人にも住みやすい街になる第一歩だと思います。

また外国人の子どもたちに対しては、これからの生き方を励ます日本語教育が重要であると考えます。

これからも社会や行政に対する問いかけを含む「変えていかねばならない」という思いをボランティア活動に代え、地道な活動を続けていきます。

本日はありがとうございました。

《スマイル報告》

次回行います

《出席報告》

次回行います

(会報作成 島武志)